

平成21年10月5日

低炭素都市国際会議 京都市プレゼンテーション

# 低炭素社会の実現に向けた 「環境モデル都市・京都」の取組

～ DO YOU KYOTO? ～  
環境にいいことしていますか？

平成21年10月5日

京都市長

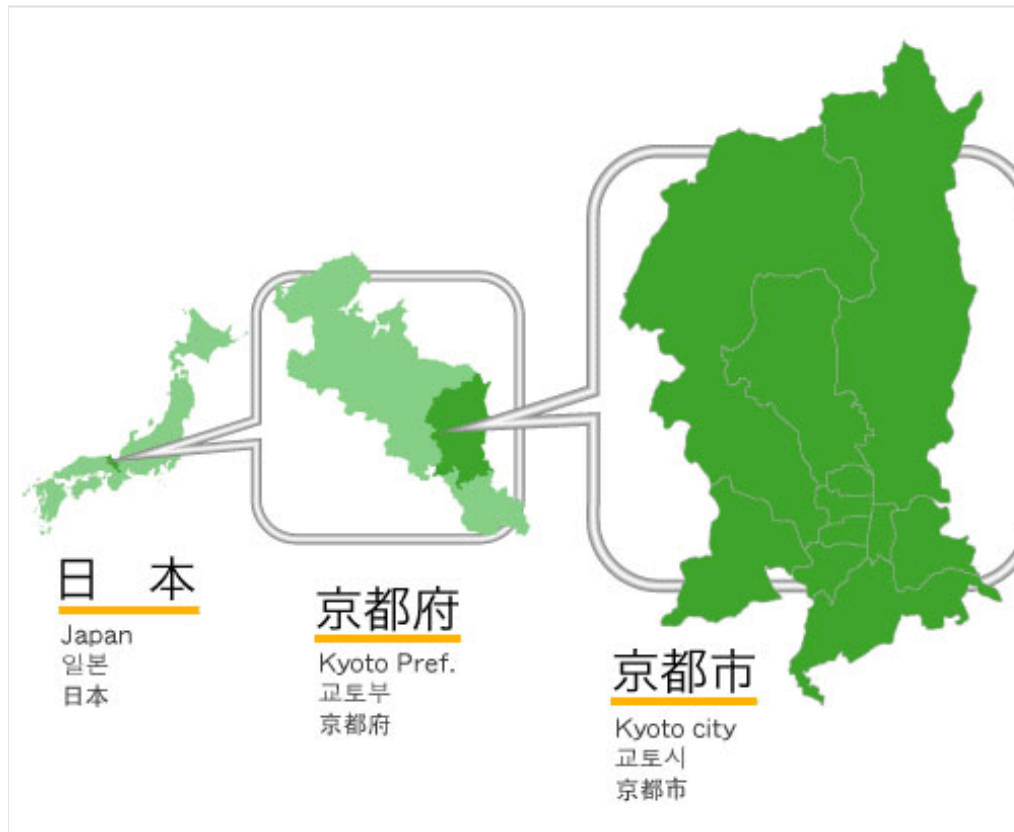
門川 大作



# 京都市の概要 「歴史都市・京都」



# 京都市の概要 「歴史『都市』・京都」



人口：約147万人

面積：827.90 km<sup>2</sup>

(市街化区域：150 km<sup>2</sup>)

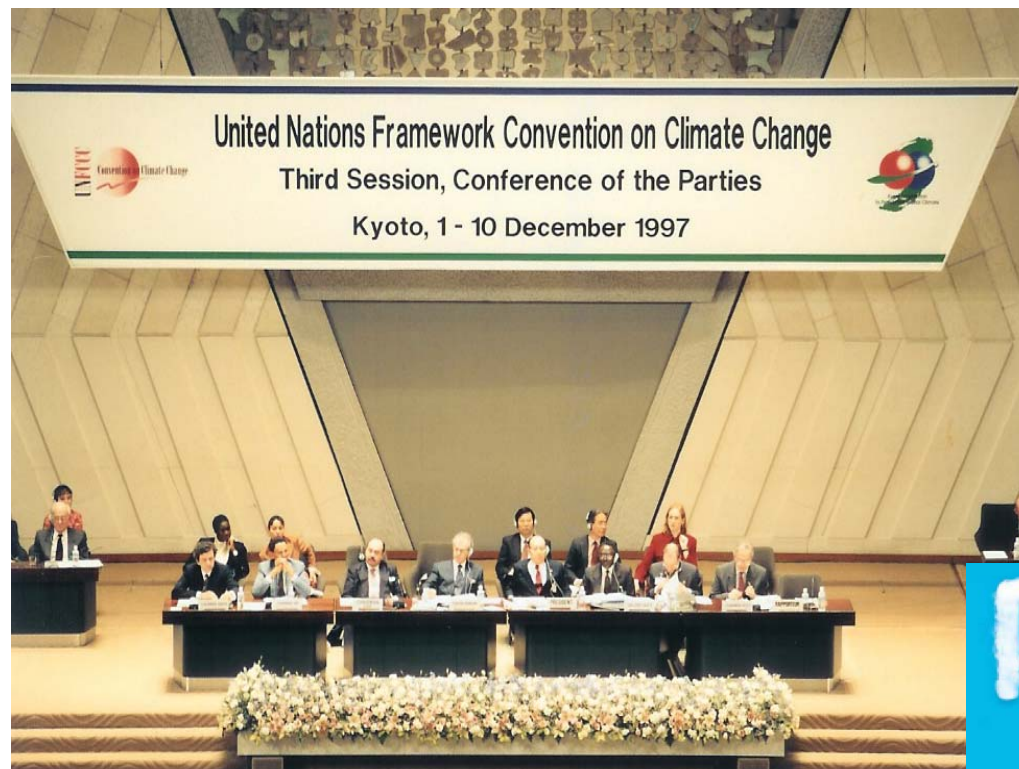
平安京以来約1000年間、都としての歴史を持つ歴史都市

年間5000万人を超える観光客が国内外から訪れる観光都市

市域の4分の3が森林  
山紫水明の自然に囲まれる

イノベーションを生み出す  
ものづくり都市，大学のまち

# 京都市の概要 「議定書誕生の地」



COP3 1997年(平成9年)12月



**COP3開催と京都議定書の誕生を契機に、地球温暖化防止に向けた様々な取組を推進**

# 「環境モデル都市・京都」の取組

## ■中長期目標

- ・ 2030年までに**40%**削減
- ・ 2050年までに**60%**削減 （いずれも1990年比）

## ■取組のポイント

- ◆持続可能な低炭素社会の構築に向けた第一歩として、  
3つの「**シンボルプロジェクト**」を推進する。
- ◆「**市民会議**」を設置し、市民、事業者の皆様と一緒に  
なって考え、行動につなげていく取組を進める。

# シンボルプロジェクト①

## 人が主役の道づくり，まちづくりを目指す 「歩くまち・京都」戦略

- 歩道拡幅による歩行空間確保と公共交通優先の取組（トランジットモール化）と周辺の自動車流入抑制



混雑する四条通

商業の賑わいも併せて目指す

- モビリティ・マネジメント施策の継続と拡大

「モビリティ・マネジメント施策」  
→過度なクルマ利用からの自発的な変革に向けた、アンケート等による双方向のコミュニケーションを中心とした持続的な取組



公共交通機関以外の流入規制と車道を狭めた歩道の拡幅  
（「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験 H19.10）」

# シンボルプロジェクト②

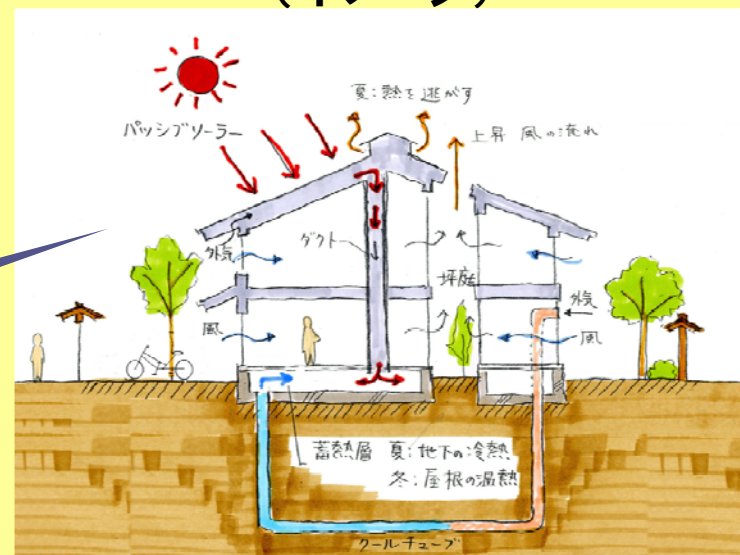
## 景観と低炭素が調和した 「木の文化を大切にすまち・京都」戦略

- 景観と低炭素が調和した建築物認証制度の創設
- 「平成の京町家」の研究開発とモデル建設
- 市内産木材利用（地産地消）の促進

市内面積の4分の3が森林

- ・ 坪庭など京町家の知恵
- ・ パッシブソーラー（太陽熱を直接利用する住宅設計）等の環境技術を活かした低炭素化
- ・ 市内産木材の活用による低炭素化

モデル建築物「平成の京町家」  
（イメージ）



# シンボルプロジェクト③

## “DO YOU KYOTO?” ライフスタイルの変革 と技術革新(イノベーション)

- 「エコ町内会」「エコ学校」  
「エコ企業」づくり

「エコ町内会」「エコ学校」「エコ企業」  
⇒行動計画全体の取組を推進する共通の原動力となる  
「地域力」の基盤として位置づけ、支援。

- 産学連携による環境と経済が  
調和した新たな事業の創出

「知的クラスター創生事業」  
ナノテクノロジーを基盤技術に、  
環境分野に絞り込んだ研究開発の  
推進・事業化を図る。

「グローバル産学官連携拠点」  
「低炭素社会」と「長寿健康社会」  
をテーマに研究開発を推進し、事業  
化や販路開拓を図る。



エコサポーターによる活動イメージ  
(地域における省エネ学習)



**御清聴ありがとうございました**

